

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
策定趣旨					
1	なぜ市が文化振興ビジョンを策定するのか。文化とは行政が主導するものではなく、住民の活動により形成されていくものではないのか。	本ビジョンは、市民及び学識経験者・専門家からなる委員会の議論を踏まえて策定した、文化振興の方向性を示す指針である。文化振興の主体は、小田原市民及び小田原の文化振興に関わる全ての人であることを第1章冒頭で明記している。	—	C:質問	エ:その他
2	ビジョンとは市が作るものか、市と市民が作るものか。それぞれの立ち位置がよく分からない。(市が市民の意見を踏まえながら取りまとめたものか、市と市民との憲章のような性格を持つものか。)	市が専門家及び市民の代表とともに作ったものである。市民のうち半数は無尽蔵プロジェクトのコーディネーター、半数は公募により選定しており、現状の市民の文化活動の状況を踏まえたものと考えている。また、これからの指針という意味では、憲章的な性格を有している。	—	C:質問	エ:その他
3	小田原には歴史や文化があると書かれているが、それならば改めて文化振興ビジョンを策定する必要はない。過去にそれらを大切にしていなかったから策定するのではないか。良いことを書くよりも過去の反省の上に新たに行動を起こすとするほうが、より強く明確な意思を感じ取れる。	過去に反省すべき点があることは否めないが、本ビジョンは、これまでの歴史やそれにより培われてきた文化を前提とした将来への展望として、改めて市の考え方を示すものである。	—	A:提案	エ:その他
4	ビジョンとは小田原文化の将来的な姿を描くもので、市民ホール整備とは別の次元で独自に策定されるものと理解していたが、策定検討委員会の市長挨拶で「市民ホール計画の過程でビジョンが必要となった」という発言があり失望した。市民ホール整備のためのビジョンならば、整備計画の一部として検討し、市民ホールの必要性を提示すれば十分である。	市民ホール整備に関する議論が契機の一つであることは事実だが、本ビジョンは市民ホール整備の理由付けとして策定するものではない。本ビジョンは、小田原市(行政)、小田原市民及び小田原の文化振興に関わる全ての人々の文化振興の方向性を示す指針である。なお、市民ホール整備事業の目的は、建物を建設することではなく、小田原で芸術文化を鑑賞・創造・参加・発信することにより市民と地域に活力をもたらすことであり、ホールはそのための拠点と位置付けている。	—	D:その他	エ:その他
5	文化振興ビジョンは、市民ホール建設のために策定するものではない。市民ホールも含めた小田原市の文化を、どう振興させていくかを考えるものである。		—	D:その他	ア:盛り込み済
基本理念、ビジョン全体の内容にかかること					
6	少数の策定検討委員や市に先導された文化を「市民の文化」と言って良いのか。文化やアイデンティティは、他人から押しつけられるものではない。	本ビジョンは、文化振興の方向性を示す指針であり、小田原の文化について定義したり、現状について検証・分析したりするものではない。また、文化振興の根底にある考え方として、自主性を尊重することとしており、市が市民に特定のものを文化として押し付けるものではない。	—	D:その他	エ:その他
7	小田原の人達は、これまでに数々の史実を都合の良いように歪曲してきた。歴史を守れない者に文化を守るはずがない。文化も自己の都合の良いように変えて行ってしまうのではないだろうか。		—	D:その他	エ:その他
8	現状の把握と分析、それに基づくシミュレーションがないため、「画餅」になることが懸念される。		—	D:その他	エ:その他
9	市長と行政の考えを文章化しただけであり、市民に意見を求められるレベルではない。今後、内容が成熟していくことを願う。		—	B:要望	エ:その他
10	実現に向けては、まだまだたくさんの具体案が必要だが、方向性は示されたと思う。	本ビジョンは、小田原市(行政)、小田原市民及び小田原の文化振興に関わる全ての人についての文化振興の方向性を示す指針である。具体的な事業や推進体制については、今後検討していく。	—	D:その他	ア:盛り込み済
11	文化振興ビジョンとは、行政が行う文化振興施策の基本方針(思想)を示したものと理解した。		—	D:その他	エ:その他

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
12	最後にまとめがなく、読むだけで終わってしまいかねない。ビジョンはどこに示されているのか。大胆な提案を行ってほしかった。	第1章にある「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」が、ビジョンとして示すまちの将来像である。	—	D:その他	エ:その他
13	都市ブランドの向上を目標とするならば、情報発信性を持つクオリティの高いアートにも投資していくというような、力強く現実的な決意表明をすべき。従来の自己満足で終わるお稽古ごと文化から、文化を軸にしたまちづくりのような政策投資へと転換していく決意、政策として文化に本気で投資していく意思を示してほしい。	行政が投資すべき対象は多岐にわたるため、基本指針として定める本ビジョンにおいて、投資先を絞り込むような記述は望ましくないと考えるが、今後の文化施策において意見の趣旨を参考としたい。なお、従来の文化活動も、小田原の多様かつ重層的な文化を形成する大切な要素であり、一概に否定すべきではないと考える。	—	A:提案	エ:その他
14	文化に対する税の投入に否定的な市民を納得させる説明が不足している。	文化一般についての説明として、序章において、まちづくりにおける文化の重要性(文化行政の必要性)を示している。	—	D:その他	エ:その他
15	学校教育に対する芸術文化の位置付けが曖昧である。	教育現場への働きかけの必要性は、第2章第2節(2)イ「文化の担い手を育てる」に明記しているが、学校教育に対する芸術文化のあり方を明確に位置付ける前提として、学習指導要領との整合性を図る必要があり、そのためには教育委員会と連携し、教育的な見地からの専門的知識を活用するなど、教育政策と文化政策との関連性をさらに深め、推進していくことが課題と認識している。なお、本市の文化施策としては、子ども達が芸術文化に触れる機会を創出するため、平成23年度から学校現場へのアウトリーチ活動を行っている。	—	D:その他	ア:盛り込み済
16	「小田原市の文化」というと、市域が恣意的に定められたのと同様に、混合・融合・変形された文化という感じがする。この土地の文化の実体を指すのであれば、「小田原の文化」又は「小田原文化」としたほうが、歴史的に育まれた文化とその担い手の存在を意識できる。	本文中では「小田原市の文化」という表現は使わず、「小田原の文化」について記述している。なお、ビジョン自体は、市の指針や方向性について表明するものであるため、「小田原市文化振興ビジョン」とした。	—	A:提案	ア:盛り込み済
17	もっと「小田原」を強く意識するべき。「小田原が大好き」「小田原を誇りに思う」「小田原だからできる」「小田原でないとできない」といった気持ちが束になって、様々な具体的な行動が小田原の文化を大きく、強くしていく感じが欲しい。	委員からも「小田原にこだわるべき」との意見があり、特に第1章では、このことを強く意識した記述とした。	—	A:提案	ア:盛り込み済
構成					
18	理解しやすい構成となっているが、卒なくまとまりすぎていて重厚さがない。小田原の歴史や文化について深く考察されておらず、小田原の文化がどの方向にいくべきかの議論がない。	構成については委員から様々な意見があり、委員会で議論した結果、現在のものとなった。本ビジョンは、文化振興に対する考え方を示すとともに、文化によるまちづくりの方向性を定めるものであり、小田原の歴史や文化について検証・分析するものではない。論文ではなく、憲章的な性格を有するものとして御理解いただきたい。	—	D:その他	エ:その他
19	何を訴えたいのかがうまく伝わってこない。書きたい事を列記して各章に割り振ったような印象で、平板な印象を受ける。構成が重く、全体的に読みにくくなっている。最後に提言を置くほうがすっきりしたのではないか。		—	A:提案	エ:その他
序章 なぜ、今、文化振興が必要か					
はじめに					
20	人は物やお金の為だけに生きているのではない。文化の無いところは亡びていく。	意見の趣旨に賛同。	P1	D:その他	ア:盛り込み済

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
21	どこでも通用する主張であり、「なぜ今『小田原に』文化振興か」という問いに答えていない。小田原における課題の特定に対する分析が不足している。「小田原にはない“小田原”市民ホールの整備に当たってビジョンが必要である」としても不自然ではないのでは。	小田原の文化について記述するための導入として、序章では、文化一般について述べることにしている。小田原の文化振興については、第1章以降で記述している。	P1	D:その他	E:その他
1 文化とは何か					
2 文化振興の意義とは何か～創造する力が人とまちを輝かす					
(1) 人へのはたらきかけ					
ア 感動との出会い					
22	芸術文化が「感動を与えてくれる」という表現が気になる。感動は与えられるものではなく、作品と自己との対話により自己の中から湧き上がり、生み出されるものではないか。	結果として引き起こされる状態として、「感動を与えてくれる」を「感動をもたらしてくれる」に修正する。「自己との対話」については原案に記述がある。	P2	A:提案	I:案の修正
イ 人と人のつながり					
23	「文化を創造する」という表現が気になる。文化とは総体を示し、「創造」や「鑑賞」とは個別のものではないか。	「文化を創造する活動」を「作品を創造する活動」に、「文化を創造する場」を「芸術作品を創造する場」に、「文化を創造したり」を「一つの作品を創り上げたり」に修正する。	P2	A:提案	I:案の修正
(2) まちへのはたらきかけ					
ア 特色ある地域づくり					
24	「文化を起爆剤にした」というのは、表現が強すぎるのではないか。	「起爆剤」という言葉は、「物事のきっかけ」や「誘発する要因」として一般的に使用されている。	P3	C:質問	E:その他
25	「もともと地域が有していた資源」だけでなく、新しい切り口で見直すという視点も必要である。	「土台に」としているとおおり、ここでは地域資源の付加価値を高めるという方向性を示している。	P3	A:提案	E:その他
イ 経済の活性化					
(3) 文化振興の根底にあるもの					
ア 自主性を尊重すること					
イ すべての人に開かれていること					
26	外国人の観光客が少ないのは、見学場所がないのではなく、案内表記が分かりづらいためではないか。案内所や掲示板など課題は多い。	本市では、城址公園内を含めて英文併記の案内板等の設置を進めており、今後も適時設置していくが、案内板の大きさや文字数等の物理的な問題もあり、多言語の表記は難しいものと考えている。このため、多言語によるパンフレットの作成・配布等により、外国人観光客への対応を図っている。	P4	A:提案	ウ:今後の参考
ウ 経済と文化の循環					
第1章 私たちが考える文化振興					
1 小田原の宝は何か					

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
27	足柄平野一帯の山や田畑は荒廃し、酒匂川原風景は河川工事により失われつつある。また、鎌倉などと比べると古くからの歴史を感じさせる建物は少なく、歴史都市とは感じにくい。自分のまちに誇りを持つことは重要だが、他と比較して現状を認識し、見つめ直すことができないければ、これからも変えていくことはできないのではないか。	市に対する意見として承る。	P6	A:提案	ウ:今後の参考
28	小田原城への交通手段は徒歩のみであり、天守閣前の広場に行くまでには階段や狭い橋があるため、足の不自由な方、高齢者、ベビーカー等の利用者には不便。ミニバスやタクシーの乗り入れを可能にするべき。アクセスの向上と観光客の増加のため、人力車を導入してはどうか。	障がいのある方等が市内の様々な場所に気軽に訪れることができるよう基盤整備を進めていくことは必要と考える。天守閣前広場へのタクシー等の乗り入れについては、他の観光客等に対する安全確保が難しいため、現在は乗り入れを禁止している。人力車の導入については、意見として承る。	P6	A:提案	ウ:今後の参考
29	誰にも分かりやすい小田原文化史を編纂してはどうか。ビジョンに添付しても良い。	本ビジョンへの添付は行わないが、市に対する意見として承る。なお、既刊の刊行物としては、「小田原市史」及び「小田原市史ダイジェスト版『おだわらの歴史』」がある。	—	A:提案	ウ:今後の参考
30	交通利便性については、地理歴史的な背景も述べると小田原の位置付けが明確になると思われる。時系列で論理的に展開されていればさらに良かった。		P6	A:提案	エ:その他
31	現在から未来への展望を描くのだとしても、歴史的事実、地勢、自然環境等を背景として文化が形成されてきた過程をしっかりと省みなければならぬ。そのうえで現在の文化の姿を検証し、小田原の文化の軸を決め、さらに市民文化として読み直すことで、一貫性のある新しい文化の展望が描けるのではないかと。	本ビジョンは、文化振興に対する考え方を示すとともに、文化によるまちづくりの方向性を定めるものであり、小田原の歴史や文化について検証・分析するものではない。論文ではなく、憲章的な性格を有するものとして御理解いただきたい。なお、「小田原の宝」については、次節以降に記述する「小田原の文化」の前提として、全国的に見て比較的優位であると判断できるものを列挙した。	—	A:提案	エ:その他
32	地域資源(小田原の宝)について具体的な記述が欲しい。自然環境が生み出してきた歴史や文化の成り立ち、現在の小田原文化が誰にでも想起できるような記述が望まれる。		—	A:提案	エ:その他
33	小田原らしさの記述に具体性が不足している。一般論としては妥当だが、「小田原の宝」がどのように小田原らしさを形成してきたかが読み取れない。小田原の文化に対する掘り下げがなされていないのでは。		—	D:その他	エ:その他
2 小田原らしい文化とはどういうものか					
34	小田原市らしい文化と小田原らしい文化とはどのように違い、ビジョンではどちらについて論じようとしているのか。	「小田原市」とは市域を指すが、本ビジョンで論じようとしているのは、市域の一部又は市域を含む周辺一帯に根付く文化であり、本文中では(「小田原市の文化」ではなく)「小田原の文化」としている。なお、ビジョン自体は、市の指針や方向性について表明するものであるため、「小田原市文化振興ビジョン」とした。	P7	C:質問	エ:その他
(1) 暮らしとともにある文化					
(2) 伝統と革新が息づく文化					
35	「革新」についてきちんと説明しないと、誤解を生む可能性がある。小田原の歴史や風土の上にただ革新を重ねるのではなく、新たな視点や切り口で見直すことが革新ではないか。	「革新」とは、「古くからのものを新しくする、既存のものを改める」という意味であり、ここではもともと小田原にあるものを前提としている。	P7	A:提案	エ:その他
(3) 多様さを生かしあう文化					

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
36	「多様な価値観が共存できるまちは～」の「共存」だが、共存する前に多様な価値観を認める必要がある。「多様な価値観を認め、共存できるまちは～」とすべき。	意見のとおり修正する。	P8	A:提案	イ:案の修正
37	新しい人が新しいことをすると古くからの人が邪魔をするというのが歴史ある都市の悪いところである。そのことをきちんと書き込むべき。	従来の文化活動も、小田原の多様かつ重層的な文化を形成する大切な要素であり、新たな文化活動との衝突は、地域文化創造の原動力と捉え、一概に否定すべきではないと考える。	—	A:提案	エ:その他
3 文化振興ビジョンで目指す小田原のすがた					
38	「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」という目標が抽象的で、まちづくりプランのように感じる。近い将来に市が達成したい文化のあるべき姿が伝わるような一文としてほしい。	本ビジョンは計画ではなく、文化振興の方向性を示す指針であり、「なぜまちづくりに文化が必要か」という根本的な問いかけがあることを踏まえて、目指す「まちの姿」を最大の目標とした。	P8	B:要望	エ:その他
39	「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」では平和的な雰囲気強く、政策として意欲的に取り組んでいく姿勢が感じられない。多くの市民が多様な価値観に基づき、様々な文化活動を自主的に行うというイメージの提示が必要ではないか。		P8	A:提案	エ:その他
40	「豊かな文化を背景として」ではなく、豊かな文化そのものを目指すのではないか。	行政の役割は、文化振興そのものではなく、豊かな文化を通じて社会や経済をよりよいものへと高めることと考える。	P8	C:質問	エ:その他
41	文化振興のビジョンが描かれていない。「小田原のすがた」ではなく「小田原(市)の文化のすがた」を書くべき。		P8	A:提案	エ:その他
42	コミュニティ論とブランド論のみが挙げられているが、一般論であり、小田原の将来像として提示するには当たり前すぎる。また、この2つだけで小田原の姿が描けるのか。	社会経済情勢を踏まえ、現在の小田原に必要なものとして委員会での議論により決定し、より明確かつ簡潔に概念を伝えることのできる語句として選択した。日本社会の現状において、全てのカタカナ語(外来語及び和製英語)を否定することは不可能である。	P8	C:質問	エ:その他
43	概念自体は否定しないが、コミュニティやブランドというカタカナには違和感がある。		P8	D:その他	エ:その他
44	「小田原の宝は何か」と「小田原らしい文化とはどういうものか」から「文化振興ビジョンで目指す小田原のすがた」とするのは、展開に少々無理がある。	「小田原の宝」については、次節以降に記述する「小田原の文化」の前提として、全国的に見て比較的優位であると判断できるものを列挙した。なお、構成については委員から様々な意見があり、委員会で議論した結果、現在のものとなった。	—	D:その他	エ:その他
(1) 人～互いを認め合い、コミュニティの絆を結ぶ					
(2) まち～小田原という都市ブランドを高める					
45	北条時代の繁栄が、現在の小田原のどこに残っているのか。	各所に残る史跡、多種多様な地場産業、交通の要所としての6路線の乗り入れ等は、全てこの土地での歴史の積み重ねにより形成されたものとする。また、有形のものに限らず、例えば北条五代祭りパレードへの多数の市民参加や大河ドラマ化を望む声があるように、北条氏の繁栄は市民の心の中にも息づいているものとする。	P9	C:質問	エ:その他
第2章 課題と取り組み					
46	課題と施策が述べられているだけで、ビジョンと呼べるものが提示されていない。	第2章は、ビジョン実現のための課題と施策について述べる章である。なお、第1章にある「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」が、ビジョンとして示すまちの将来像である。	—	D:その他	エ:その他

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
47	ここでの記述は、市が総合的・重点的・戦略的施策として取り組んでいくと宣言し、実現を約束したものと理解する。	小田原が抱える課題について市民と市が共通の認識を持ち、ともに解決に向けて取り組んでいくための方針として示したものである。	—	D:その他	E:その他
1 まちづくりと文化振興の現状と課題					
48	部分的に小田原について言及しているが、一般論の域を出していない。	一般論ではあるが、まちづくりや文化振興における課題として考えられるもののうち、小田原に該当するものを挙げている。いずれも現実に小田原で起きていることとして、小田原が抱える課題として認識していただきたい事項であり、ここで優劣を示すべきではないと考える。	—	D:その他	E:その他
49	課題が全て同列に挙げられており違和感がある。コミュニティ、地域経済、郷土愛は概ね文化と同列の概念だが、創造拠点と後継者育成は下位の概念ではないか。		—	A:提案	E:その他
50	芸術文化創造拠点の整備が唐突に挙げられており、ビジョンとホール整備の不自然な関係が見えてしまっている。(ホール建設に反対しているわけではない。)課題に対する分析が足りない。分析することで初めて小田原ならではの課題として浮き彫りにされ、市民ホール整備の必要性が導かれるのではないか。	本ビジョンは、小田原の課題について検証・分析するものではない。市民ホール整備に向けての議論が契機の一つであることは事実だが、本ビジョンは市民ホール整備の理由付けとして策定するものではない。芸術文化創造拠点の整備は、あくまでビジョン実現のための課題の一つという位置付けである。	P10	D:その他	E:その他
51	「芸術文化創造拠点の整備」では、舞台公演だけに焦点が当てられており、他の分野が看過されている。	現状において市民会館には舞台設備に関する課題があるという意味であり、新たな芸術文化創造拠点で行われる活動を限定するものではない。事業方針については、市民ホール基本構想及び市民ホール基本計画(平成24年3月策定)を参照されたい。	P10	D:その他	E:その他
52	「芸術文化創造拠点の整備」では、市民会館の施設が使いにくく、老朽化したから事業が減っているのではないということを明確に認識する必要がある。市民ホール基本構想にその記述があるので、同趣旨を加えてもらいたい。	意見の趣旨を反映する。「近年は～言えず」を削除し、「十分に対応できない状況です。」以下を「十分に対応できない状況であり、民間事業者による公演も減少しました。さらに、継続的に事業を行う運営組織もなく、芸術鑑賞の公共的意義が明確に位置づけられていなかったため、市財政の緊縮化や時代の変化に従い、公演等芸術文化に触れる機会が不足しています。」に修正する。	P10	A:提案	I:案の修正
53	「担い手や後継者の育成」の「制作者・鑑賞者・専門家を繋ぐ」は、「鑑賞者と制作者・専門家を繋ぐ」とすべき。		P11	A:提案	I:案の修正
54	「情報発信力等の向上」について、現状はどうか。「様々な手段を通じて、広く提供されています。」とあるが、賛同できない。「広く」を削除すべき。	意見のとおり修正する。	P11	A:提案	I:案の修正
55	「行政の文化に対する取り組みの強化」について、財政状況の悪化により予算が削減されたとあるが、もともと文化予算は少なかったのではないか。市民任せになっていなかったか。また、市民ホールについてはきちんとした運営組織を作らなかったことに大きな原因がある。今後についてきちんと記述すべき。	文化基金の利子が潤沢だった頃は、それだけでも年間4千万円以上が文化事業に使われていたため、財政状況の影響もあると言える。ここでは課題の抽出にとどめ、今後については第2節「施策の方針と取り組み」以降に記述する。	P12	A:提案	E:その他
2 施策の方針と取り組み					
56	総花的で、どのような道筋で政策として実行するのが分かりにくい。行政が政策として実行するビジョンであれば、施策に優先順位を付け、期間を定めて目標を設定し、事後評価についても定めるべき。	本ビジョンは計画ではなく、文化振興の方向性を示す指針である。	—	A:提案	E:その他
57	最後のまとめの部分の「小田原が新しいステージに進むというメッセージを出します。」という表現がおかしい。	「小田原が新しいステージに進むというメッセージを打ち出します。」に修正。	P17	A:提案	I:案の修正

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
58	事業例は思いつき、あるいは既存の事業を挙げただけとを感じる。ビジョンにふさわしい創造的な提案が欲しい。	事業例は、具体的な事業をイメージするための例として本文中に記載した。実績のある既存事業ではなく、これから新たに取り組むべき事業、開始したばかりの事業、今後さらなる検討を要する事業などを挙げている。	—	B: 要望	エ: その他
59	事業例は別の資料等で整理したほうが、本章の格調を保てたのではないか。		—	A: 提案	エ: その他
60	一番の課題は、文化財保護・維持と考える。理想論だけでは何もできないので、財政計画が必要。観光客に向けて有料の案内誌を提供し、財源を確保すべき。	文化財保護・維持の必要性は、第2章第2節(3)「まちの魅力を磨く」に明記している。財源及び計画については、本市の財政状況を踏まえ、必要な投資を引き続き行っていくが、序章(3)「経済と文化の循環」で示す経済と文化との循環関係を生み出すための仕組みづくりが今後の課題であると認識している。	—	A: 提案	ア: 盛り込み済
61	様々なジャンルで文化を守り、文化の創造に携わっている人達が手を取り合って、その他の市民とも力を合わせ、行政とともに小田原の文化を創造していくという力強さが欲しい。	趣旨は踏まえているが、ここでの記述は「創造」の先を見据えたものとしている。	—	A: 提案	エ: その他
62	舞台上踊るのは市民、舞台を支えるのは行政ということを明確にし、市民・行政ともに自覚し合うべき。ただ、ハードは行政、ソフトは市民といった単純なものではなく、相互に関わりあう部分もある。	「新しい公共」においては、市民もまた舞台を支える役割を担う必要があるが、一方で、行政が率先して行うべきときもある。時代の変化に対応するためには、役割分担を明確にするよりも、むしろ柔軟に考えていく必要がある。	—	A: 提案	エ: その他
(1) 芸術文化を身近なものにする					
ア 多彩な文化事業を行う					
63	「一つひとつは小さなものでも」は、わざわざ書く必要はない。	文化事業のイメージを膨らませるため、委員意見により追加したものである。	P12	A: 提案	エ: その他
64	「事業を行うのは、行政ではありません。」は、「事業を行うのは、市民一人ひとりが主役です。行政は、市民の文化活動の状況を把握し、先導的に呼び水となるような事業を展開します。」など、文化活動の主体は市民であるというスタンスの表現とすべき。	市民が主役であることを再確認するために入れた一文である。	P12	A: 提案	エ: その他
65	「最先端の技術や思想を取り込めるような文化事業」とは何か。	事業例で示した「最先端で活躍する人達を招いたフォーラム」等を想定している。	P12	C: 質問	エ: その他
66	事業例に「国内外で評価される作家・作品の美術展」を入れてほしい。	今後の事業において参考としたい。	P13	A: 提案	ウ: 今後の参考
イ 文化が育つ場所を創る					
67	市民ホール整備は重要だ。	意見のとおり。本ビジョンは、市民ホール整備を含む文化振興の方向性を示す指針として策定するものである。(なお、市民ホールは、本ビジョンにおいて芸術文化創造拠点と位置付けている。)	P13	D: その他	ア: 盛り込み済
68	市民ホールは、投資規模からも現在の小田原市にとって大変重要なものだが、あくまで文化振興の一つであり、他にも重要なことはたくさんある。		P13	D: その他	ア: 盛り込み済
69	既存文化施設について「市全域での機能分担を考え、リニューアルしていきます。」とあるが、ここまではっきり書いてしまっても実現できるのか。	実施は困難かもしれないが、市民ホール基本計画でも提示している考えであり、長期的に取り組まなければならない課題と認識している。	P13	C: 質問	エ: その他
70	「図書館や博物館に相当する施設等」は、「図書館や博物館、美術館に相当する施設等」とすべき。	美術館や文書館などの施設も、「等」に含むものと解釈できる。	P13	A: 提案	エ: その他

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
71	事業例「既存文化施設の再整備」の中に「松永記念館」を明記してほしい。	既存文化施設全体を対象としているため、個別には明記しない。	P13	A:提案	エ:その他
72	美術館の必要性が論じられないのは大変残念だ。小田原市に美術館を整備してほしい。多くの優れた作家がいるのに、作品の保存・収集が不十分であり、次代に大切な文化資産を残せなくなる恐れがある。また、作品の鑑賞は、学校教育・生涯教育の観点からも必要であり、芸術的な環境を整えることによって、優れた人材を輩出できると考える。整備に当たっては、2市8町の中心として西湘地区全体の視点で考え、また財政を考慮し、新築ではなく既存の建物を利用して有効活用を図るべき。	今後の施策において参考としたい。	P13	A:提案	ウ:今後の参考
(2) 志ある人を育てる					
ア 小田原を知る					
73	「自分のまちの魅力を知ることは郷土愛を育むための第一歩です。」は、「自分のまちの魅力を知ることは、誇りを持って生活し、郷土愛を育むための第一歩です。」とすべき。	意見のとおり修正する。	P13	A:提案	イ:案の修正
74	小学校の遠足等で小田原城の大外郭を歩き、小田原の広さ、素晴らしさを体験して小田原を好きになってほしい。	今後の事業において参考としたい。	—	A:提案	ウ:今後の参考
イ 文化の担い手を育てる					
75	「プロがこのまちを拠点として～」の部分、何を言おうとしているのかわからない。	プロの活動が地域にもたらす効果を挙げたうえで、プロが小田原に滞在して創作活動を行い、また、小田原で公演や展示を行うことができるよう環境を整えるということを示している。	P14	C:質問	エ:その他
76	「観客との間を橋渡しする文化事業の企画や運営に携わる市民も重要です。コーディネーターの役割を担う人を育て～」は、「観客との間を橋渡しするコーディネーターや文化事業の企画や運営に携わる市民を育て～」とすべき。	意見のとおり修正する。	P14	A:提案	イ:案の修正
77	未来の子ども達への投資は重要。文化にお金をかけることにより、その何倍何十倍もの効果を小田原にもたらすと確信している。	意見の趣旨に賛同。	P14	A:提案	ア:盛り込み済
78	いくら子どもが学校で文化に触れても、大人に感受性がなければそのときだけで終わってしまう。大人の文化を育てることが、子どもにとってもプラスになるのではないか。		P14	A:提案	ア:盛り込み済
79	「市民によるドイツクワイエム」を聴き、「感動を伝えたい」ということを実感した。プロも大切だが、やはり市民がどれだけ心を動かすかだと思う。		—	A:提案	ア:盛り込み済
(3) まちの魅力を磨く					
80	「地域資源から付加価値を引き出します。」は、「芸術文化の視点から地域資源を見つめなおし、新たな付加価値を引き出します。」とすべき。	意見のとおり修正する。	P15	A:提案	イ:案の修正
ア 地域資源を生かす					

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
81	すでに「おだわら木のアトリエMOC」という実践例がある。大変重要で継続性が必要な事業であり、復活を検討してほしい。アーティストが小田原市に残らなかったことが誤算であり、今ひとつ市民へのアピールが弱かった。事業は官民協働で育てていくものであり、事業内容・運営のあり方等を再検討するなどしたうえで、行政のさらに踏み込んだ協力のもとに実施したい。	具体的な事業等については、今後検討していく。	—	A: 提案	ウ: 今後の参考
82	小田原ちょうちんをもっと活用してはどうか。太陽光発電式のちょうちんを製作して商店街の街灯にしたり、販売して市の財源に充てたりしてほしい。小田原ちょうちん夏祭りでは、制作体験だけでなく販売もしてほしい。		—	A: 提案	ウ: 今後の参考
イ まちの記憶を伝える					
(4) 小田原を発信する					
ア 小田原の文化を演出する					
イ 交流を拡げる					
83	交流する前に、まずは文化をきっかけとして新たなコミュニティをつくる必要があるのではないか。	文化によるコミュニティの形成については序章及び第1章で言及しており、ここでは取り組みとして一歩進んだ記述としている。	—	A: 提案	エ: その他
84	まちなかの商店ばかりを重視しているが、その他の商店街についてはどう考えているのか。	市街地の商店街とその他の商店街とを区別するつもりはない。本ビジョンは、特定の地域に限定せず、小田原の様々な場所で文化活動が行われ、地域が活性化していくことを期待している。	—	C: 質問	エ: その他
第3章 推進体制の整備に向けて～策定検討委員会からの提言					
85	体制と評価だけでなく、行程も示すと良い。論理的な関係から時間的優先度を明確にすることで、実現されたか否かが評価できるようになる。	具体的な推進方法については、今後検討していく。	—	A: 提案	ウ: 今後の参考
1 推進体制について					
86	「文化振興は私たち一人ひとりの問題です。」は、「文化を生き生きと豊かなものとするのは、私たち一人ひとりです。」又は「文化を振興する主体は、私たち一人ひとりです。」とすべき。	文化振興への関わり方には個人差があるため、「主体」とまでは言い切れない。まずは一人ひとりが自分自身の問題として捉える必要があると考える。	P18	A: 提案	エ: その他
87	「ビジョンの推進には、文化振興施策を把握し、実施される文化事業全体のバランスや～」は、「文化振興ビジョンを推進するためには、文化振興施策を把握し、文化事業全体のバランスや～」とすべき。	意見のとおり修正する。	P18	A: 提案	イ: 案の修正
88	無尽蔵プロジェクトの見直しも含めて、ビジョンに基づく、市民による実行組織が必要。	具体的な推進方法については、今後検討していく。	—	A: 提案	ウ: 今後の参考
2 効果測定について					
89	プロ・アマを問わず芸術活動の質の高さを要求しているように見えるが、草の根の市民の文化活動についても、質の高さを評価すべきと考えるのか。	プロでなくても質の高い活動をしたいと願う気持ちがあるという意味である。市としては、必ずしも質の高さだけを要求するわけではない。	P18	C: 質問	エ: その他
90	「文化活動は、プロ、アマを問わず、活動の質の高さを～」は、「プロ、アマを問わず、文化活動において、質の高さを～」とすべき。	意見のとおり修正する。	P18	A: 提案	イ: 案の修正

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
91	「ビジョンは、個々の事業の結果を判断するのではなく、ビジョンの実現度を評価すべきです。」とはどういうことか。アンケート調査が大切だという結論につなげるならば、「文化振興ビジョンの達成度を図るためには、個々の事業の実施目的を把握し、それぞれの目的がどの程度達成されているのかを多様な視点から評価する指標が必要でず。」とすべき。	ビジョンの実現度の評価については、委員意見を反映させたものであり、アンケート調査の必要性を結論づけるものではない。	P18	A: 提案	エ: その他
92	個々の事業よりもビジョンの実現度を評価すべきとしているが、まずは個々の事業を費用対効果(税金の効果的な使用)の観点から評価すべき。事業の集積としてビジョンの達成度があるわけで、事業よりもビジョンという考えでは、評価の根拠が曖昧になってしまう。	具体的な測定方法等については、今後検討していく。	P18	A: 提案	ウ: 今後の参考
93	結果としての実現度は重要だが、特に施策や事業については、事前の評価も必要。		—	A: 提案	ウ: 今後の参考
94	どのように評価を行うかが書かれていない。		—	D: その他	エ: その他
用語説明					
95	「ビジョン」も含めカタカナ表記が多い。全て日本語で分かりやすい言葉に直してほしい。意味を考えながら読むと問題点が分かりづらい。	より明確かつ簡潔に概念を伝えることのできる語句として選択した。策定の過程において、簡潔な日本語で的確に表現できるものは修正したが、そうでないものは巻末にて解説することとした。日本社会の現状において、全てのカタカナ語(外来語及び和製英語)を否定することは不可能である。	—	D: その他	エ: その他
96	カタカナでないと概念が適切に表せない言葉もあると思うが、用語集では改めて説明を要しない日本語を使う、あるいは本文中で説明をつけて使うなどの配慮が必要。		—	A: 提案	エ: その他
その他					
97	経済が潤い、人が集まればそこで文化は形成され、経済が停滞すれば文化は廃れていく。文化振興ビジョンの策定は、経済の回復の後でも良かったのではないか。	文化は社会の絆を強め、経済活動を盛んにするなど、経済と文化が相互に良い影響を与え合うこともある。なお、本市では、民間と行政が共有する地域経済の経営理念として、平成24年1月に「小田原市地域経済振興戦略ビジョン」を策定した。	—	A: 提案	エ: その他
98	一部の人の意見で「これが小田原の文化だ」と決めつけられてしまうことを懸念している。	本ビジョンは、文化振興の方向性を示す指針であり、小田原の文化について定義するものではない。文化振興の根底にある考え方として、自主性を尊重することとしており、市が市民に特定のものを文化として押し付けるものではない。	—	D: その他	エ: その他
99	策定検討委員の人数が少なく、偏りがある。市民ホール基本計画の委員と重複しており、少数意見が無視されるのではないか。	文化芸術・経済・伝統工芸・まちづくり等の各分野で活躍されている学識経験者・専門家及び市民による委員会での議論するとともに、市民の代表である市議会議員やパブリックコメント等で広く意見を聴取している。また、市民ホールは文化振興ビジョンの理念を実践する場と位置付けており、両委員会の委員が一部重複することは妥当と考える。	—	D: その他	エ: その他
100	策定に当たっては、新ホールの館長、美術・音楽・演劇・文学・教育関係の専門家、小田原市観光協会なども入れるべきだった。策定のためだけに専門家を外部から集めても机上の議論に過ぎず、本当に小田原のためになる案は出てこない。小田原市に採用されて仕事をする専門家でなければ責任もない。今回は試案とし、今後継続して議論してほしい。		—	D: その他	エ: その他
101	ビジョン策定の前提として、新ホール館長、運営に携わる音楽・演劇・美術(キュレーター)の専門家の採用が急務ではないか。	具体的な推進体制については、今後検討していく。	—	A: 提案	エ: その他

「小田原市文化振興ビジョン(案)」に対する市民意見及び市の考え方

No	意見	市の考え方	該当ページ	意見分類	反映区分
102	大多数の市民は検討の場に参加しておらず、知らない間に自分達の文化を検討されてしまっているということを、策定に関わる全ての人が認識するべき。	市民のための文化振興ビジョンであることを常に念頭に置き、今後とも推進していく。	—	D:その他	E:その他
103	小田原の歴史・商業・自然等々を未来へつなげていく可能性について、様々な角度から分析できた委員会だった。	今後は策定趣旨の実現に向け努める。	—	D:その他	E:その他
104	文化振興ビジョンは、今後トップが変わっても変化させてはならない。	本ビジョンは、小田原市総合計画に掲げる「希望と活力あふれる小田原」の実現のために策定するものであり、総合計画の修正及び社会経済情勢の変化によっては見直しを行う可能性がある。しかし同時に、行政の継続的な施策として示すものであり、生き生きと暮らすことのできる社会の実現に向けて取り組むという方向性は、どの時代にも共通するものである。その意味では、今後も本ビジョンの基本理念が変わることはない。	—	D:その他	E:その他

(計11名 104件)

A(提 案):58件

B(要 望): 3件

C(質 問):12件

D(その他):31件

A(盛り込み済):12件

I(案の修正):12件

U(今後の参考):13件

I(そ の 他):67件